

平成28年度  
(2016年度)

## 事業報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

公益財団法人ユニジャパン

# 平成 28 年度 事業報告

## I. [事業の状況]

### 1. 国際映画祭事業

- 名 称： 第 29 回東京国際映画祭
- 主 催： 公益財団法人ユニジャパン  
(第 29 回東京国際映画祭実行委員会)
- 共 催： 国際交流基金アジアセンター (アジア映画交流事業)  
東京都 (コンペティション部門、ユース部門)
- 期 間： 平成 28 年 10 月 25 日 (火) ~平成 28 年 11 月 3 日 (木・祝)
- 企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの未来、  
CROSSCUT ASIA #03 カラフル! インドネシア、日本映画スプラッシュ、  
ワールド・フォーカス、JAPAN NOW、日本映画クラシックス、  
アジア三面鏡 2016 : リフレクションズ、映画監督 細田守の世界、  
歌舞伎座スペシャルナイト、みなと上映会、TIFFCOM2016、  
第 13 回文化庁映画週間 他
- 会 場： 六本木ヒルズ、EX シアター六本木 (以上、港区) をメイン会場とし、その他都  
内劇場及び施設・ホールを使用
- 後 援： 総務省／外務省／経済産業省／観光庁／港区／新宿区／(独)日本貿易振興機構  
／東京国立近代美術館フィルムセンター／  
(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団／(公財)JKA／  
(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／  
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／  
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション (MPA) ／  
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／  
NPO 法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／  
(一財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／  
(一社)デジタルメディア協会／駐日インドネシア共和国大使館／  
(一社)新宿観光振興協会
- 支 援： 文化庁 (国際芸術フェスティバル支援事業) ／経済産業省
- 補 助： 公益財団法人 JKA (競輪補助事業)
- オフィシャル パートナー: 木下グループ／日本コカ・コーラ(株)
- プレミアム スポンサー : キヤノン(株)／キヤノンマーケティングジャパン(株)／(株)WOWOW  
／アウディジャパン(株)／フィールズ(株)
- スポンサー : 大和証券グループ／ソニー(株)／(株)スター・チャンネル／  
ソニーPCL(株)／セイコーホールディングス(株)／(株)ぐるなび／  
d アニメストア／(株)TSUTAYA／LUXURY CARD.

コーポレートパートナー：松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／(株)KADOKAWA／日活(株)／  
森ビル(株)／TOHO シネマズ(株)／(一社)映画演劇文化協会  
メディアパートナー：(株)朝日新聞社／(株)J-WAVE／(株)Inter FM／(株)ドワンゴ／  
日本映画放送(株)／(株)テレビ朝日／LINE(株)／ヤフー(株)／  
(株)GYAO／(株)ジャパン タイムズ／(株)インテリジェンス  
／(株)kazenawa／ダウ・ジョーンズ・ジャパン(株)  
フェスティバルサポーター：(株)ヤマハミュージックジャパン／ゲッティイメージズ ジャパン(株)／  
(株)クララオンライン／ネストイン箱根 俵石閣／  
ヴランケン・ポメリー・ジャパン(株)／(株)小田急百貨店

### 【開催概要】

第29回東京国際映画祭は、平成28年10月25日(火)から11月3日(木・祝)まで10日間、六本木ヒルズ、及び、新規のEXシアター六本木をメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また13年目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM 2016)は、昨年引き続き合同開催の第13回東京国際ミュージックマーケット(13<sup>th</sup> TIMM)、及び、東京国際アニメ祭2016秋(TIAF2016Autumn)と共に「JAPAN Content Showcase」として展開、台場(港区、ホテルグランパシフィック LE DAIBA)で開催され、好評裡に終了することが出来た。

椎名ディレクター・ジェネラル4年目である本年度の映画祭は、昨年ほどではないものの、大きな委託事業予算を確保できたため、認知度・知名度の更なる向上、上映部門数・上映本数増による鑑賞機会の拡大を図った。具体的には、今までの六本木ヒルズに、新たに、大きなホール設備のあるEXシアター六本木を加え、映画祭全体のコンパクトで効果的な運営を狙った。上映部門としては、従来の部門をきちんと押さえつつ、昨年、大変好評だった、日本映画を代表する作品を海外に紹介する「JAPAN NOW」を引き続き行い、3年目を迎える国際交流基金との共催企画「CROSSCUT ASIA #03 カラフル! インドネシア」、ジャパニアニメーション特集「映画監督 細田守の世界」といった数多くの企画を実施した。

また、新たに、映画祭全体を盛り上げるための施策として、野外上映の実施を、会期前の芝公園、及び、会期中の六本木ヒルズアリーナにて行い、より広い映画ファンへの映画祭の認知に努めた。そして、若い映画ファン、若い映画制作者の育成を目的としたユース部門の新設も行い、映画祭としての取り組み範囲を良い形で拡大する事が出来、評価も得た。

その結果、今映画祭の自主企画は40企画で、動員数は181,031人。前年対比は76.0%と減少したが、これは上映会場数、上映本数、イベント数の予算減に伴う減少が大きく影響したためであるが、上映作品数は(短編を含め)274本で、こちらは43本の増となっている。

オープニングセレモニーは、10月25日(火)にEXシアター六本木にて開催された。今年の司会は昨年に引き続き、羽鳥慎一氏。冒頭、来賓の安倍晋三内閣総理大臣、及び、世耕弘成経済産業大臣による祝辞をいただき、その後、来賓、各部門の審査委員の紹介、コンペティション部門作品の紹介を行い、ジャン＝ジャック・ベネックス国際審査委員長による挨拶が行われた。そして、今年のTIFF ミューズの黒木華氏が登壇、公式オープニング作品『マダム・フローレンス! 夢見るふたり』の主演女優メリル・ストリープ氏を呼び込んだ後に舞台挨拶が行われ、その後、本編の上映が行われた。

終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・パーティーが行なわ

れた。今年は JCS/TIFFCOM 2016 の初日である事により、お台場からも多数の参加者があり、大いにぎわいを見せた。

クロージング作品『聖の青春』のクロージング上映は、11月2日（水）に EX シアター六本木にて、森義隆監督、主演の松山ケンイチ氏、共演の東出昌大氏による舞台挨拶、及び、本編の上映が行われたが、特別ゲストとして、吉田沙保里氏、三宅宏実氏、羽根田卓也氏 3 氏のオリンピックが登壇し、大いに場を盛り上げた。

クロージングセレモニー（授賞式）は、11月3日（木・祝）に EX シアター六本木で開催された。授賞式では、冒頭、今年で 2 回目になる“ARIGATO（ありがとう）”賞受賞者として、女優の高畑充希氏、男優の妻夫木聡氏、映画監督の新海誠氏、『シン・ゴジラ』主演のゴジラ、及び、映画プロデューサーの山内章弘氏が登壇、贈賞がなされ、大いに華やいだ。その後、「日本映画スプラッシュ」部門、「アジアの未来」部門の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京グランプリ」はクリス・クラウス監督作品『ブルーム・オブ・イエスタディ』に、審査員特別賞はアマンダ・ケネル監督の『サーミ・ブラッド』に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」はミカイル・レッド監督の『バードショット』に、「日本映画スプラッシュ 作品賞」は渡辺紘文監督の『プールサイドマン』に贈られた。そして、「WOWOW 賞」にはクリス・クラウス監督作品『ブルーム・オブ・イエスタディ』、「アジアの未来 国際交流基金アジアセンター特別賞」にはアランクリター・シュリーワースタウ監督（『ブルカの中の口紅』）が選ばれた。その後、東京グランプリ作品『ブルーム・オブ・イエスタディ』の上映が行われた。終映後、アカデミーヒルズ 49 階タワーホールに会場を移してクロージングパーティーを開催、審査委員メンバー、各賞受賞者等、多数の方が参加し、最後の夜を楽しんだ。

## 【自主企画】

### （1）コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2016 年 1 月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た 16 作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）による Q&A を行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5 名（日本人 1 名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京グランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀女優賞、最優秀男優賞、最優秀芸術貢献賞の 6 賞が決まり、11 月 3 日の閉会式会場で発表された。東京グランプリには 5 万米ドル、審査員特別賞には 2 万米ドル、その他の賞に 5 千米ドルが副賞として贈られた。東京グランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金 1 万米ドルが 1 作品に贈られた。そして、昨年引き続き、WOWOW 加入者による選考委員がその映画の感動を世界中のファンと共有したいという考えのもとに選定した WOWOW 賞も発表され、1 万米ドルが 1 作品に贈られた。

- ・東京グランプリ：『ブルーム・オブ・イエスタディ』（監督 クリス・クラウス）
- ・審査員特別賞：『サーミ・ブラッド』（監督 アマンダ・ケネル）
- ・最優秀監督賞：ハナ・ユシッチ（作品『私に構わないで』）
- ・最優秀女優賞：レーネ＝セシリア・スパルロク（作品『サーミ・ブラッド』）
- ・最優秀男優賞：パオロ・バレストロス（作品『ダイ・ビューティフル』）
- ・最優秀芸術貢献賞：『ミスター・ノープロブレム』（メイ・フォン監督）
- ・観客賞：『ダイ・ビューティフル』（ジュン・ロブレス・ラナ監督）
- ・WOWOW賞：『ブルーム・オブ・イエスタディ』（監督 クリス・クラウス）

上映本数 16 作品 動員数 13,996 名

## （２）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の1本目から3本目までの長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。また、昨年につき、今年も国際交流基金アジアセンターの支援のもと、「国際交流基金アジアセンター特別賞」が国際交流基金アジアセンター特別賞審査委員により1名が選ばれた。

- ・作品賞：『バードショット』（監督：ミカイル・レッド）
- ・国際交流基金アジアセンター特別賞：アランクリター・シュリーワースタウ監督（『ブルカの中の口紅』）

上映本数 10 作品 動員数 3,546 名

## （３）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。今年は「場外乱闘編」としてオールナイト3本立ての上映も行い、大いに盛り上がった。

上映本数 11 作品 動員数 2,530 名

作品賞：『プールサイドマン』（監督 渡辺紘文）

## （４）特別招待作品

国内未公開の主な話題作品を11本厳選し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映本数 11 作品 動員数 5,440 名

#### (5) 特別上映

国内未公開の話題作品を11本選定し、上映。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。

上映本数 11 作品 動員数 3,115 名

#### (6) ワールド・フォーカス

旧来の「アジアの風」と「ワールドシネマ」部門を合体させたりニューアル部門。世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 23 作品 動員数 12,102 名

#### (7) 「CROSSCUT ASIA #03 カラフル！インドネシア」

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭のコラボレーション・シリーズ第3弾 新世代と女性映画人が台頭するインドネシアの新潮流10本を上映。大変、好評を得た。

上映本数 10 作品 動員数 2,812 人

#### (8) 「JAPAN NOW」

現在の日本映画を支える代表的な監督の作品を選定し、海外に対して今の日本映画が持つ大きな可能性と意欲を発信する事を目的とした新しい部門。代表作11本に加え、岩井俊二監督の特集5作品も上映。連日、ゲストによるQ&Aが行われ、大変好評を博した。

上映本数 16 作品 動員数 3,174 人

#### (9) 「日本映画クラシックス」

日本の名作のデジタル修復版を上映する部門。「雨月物語」4K デジタル復元版を始め、5作品を上映。往年のファンから新しい映画ファン層まで幅広く集客した。

上映本数 5 作品 動員数 1,296 人

#### (10) ユース部門「TIFF ティーンズ」

今年、新設されたユース部門「TIFF ティーンズ」は中学生以上が対象、映画を通してティーンズが一步前に進む原動力を得ることを願い、また、未来の映像作家や映画ファンの創出につながることを目指した。会期中、3本の作品を上映。アレキノ映画祭ディレクターのイエジ・モシュコヴィッチ氏を招いてのQ&Aも行われた。

上映本数 3 本 動員数 934 人

#### (11) ユース部門「TIFF チルドレン」

今年、同じく新設されたユース部門「TIFF チルドレン」は未就学児から小学生までが対象で、11月2日～6日に109シネマズ二子玉川で開催、長編5作品、短編17作品が上映された。期間中は、TIFF チルドレンワークショップとして、デンマークからアニメーション映画監督エスベン・

トフト・ヤコブセン氏を迎え、子供たち 20 人が粘土とタブレット端末を使用した「クレイ・アニメ」の制作を行った。

上映本数 22 本 動員数 1,729 人

#### (12) 「アジア三面鏡 2016 : リフレクションズ」

世界的に活躍しているアジアの気鋭監督 3 名が、ひとつのテーマのもとにオムニバス映画を共同製作するプロジェクト「アジア三面鏡」。シリーズ第 1 弾「アジア三面鏡 2016 : リフレクションズ」は、「アジアで共に生きる」というテーマのもと、さまざまな国のスタッフ・キャストが結集した。会期中には、ワールド・プレミア上映、記者会見、シンポジウムを行い、大変、意義のある取り組みとなった。 動員数 623 人

#### (13) 「映画監督 細田守の世界」

長編アニメーション映画で日本の映画界を牽引し続ける映画監督・細田守の 20 年にわたる創作の軌跡を辿る、初期の貴重な作品から最新作までを上映する世界初の大規模特集。連日、魅力的なゲストとの対談も行われ、また、映画祭会場ではこの特集の展示も行うなど、大いに盛り上がった。

上映本数 13 作品 動員数 1,334 人

#### (14) 歌舞伎座スペシャルナイト

昨年の高評価を受け、今年も実施。日本の伝統芸能の発信地である歌舞伎座にて、初の弁士付き上映を実施。古館伊知郎氏、及び、弁士の片岡一郎氏を招き、前者は『血煙高田の馬場』、後者は『忠臣蔵デジタル最長版』の弁士を務めていただき、大いに沸いた。その後、歌舞伎俳優・尾上菊之助による舞踊「鷺娘」が上映され、その華やかな舞台に会場は大きな拍手に包まれた。

10 月 27 日 (木) 歌舞伎座 動員数 875 名

#### (15) 野外上映 Cinema Arena

今年、新設した野外上映企画。会期中の六本木ヒルズアリーナを活用し、連日、野外上映を実施。上映劇場外でも無料で気軽に映画を楽しめる環境を整え、多くの一般の参加者を得た。また、ゲスト登壇のある作品や、「くまもと×ぐるなび くまダイナー in 東京国際映画祭」という熊本応援企画の飲食店の出店もあり、会場は大いに盛り上がった。

上映本数 11 本 動員数 3,300 人

#### (16) Tower Light Cinema 映画の話をしに来ませんか？

同じく、野外上映企画だが、会期前の 10 月 16 日 (日) に港区立芝公園に大きなスクリーンを設置して上映。東京の象徴ともいえる東京タワーを背景に上映がなされ、大変、良い雰囲気の上映となった。

上映本数 1 本 動員数 705 名

### (17) アニメーション特別企画 TIFF アニ！！

会期中の10月31日に東京国際フォーラムにて行われた、ジャパニーズ・アニメーション・イベント。第1部では、『虐殺器官』を含む新作アニメのプロモーションイベントを声優やクリエイターを呼び込んで実施。第2部は声優・野島健児による人気企画「のじけん BAR」のきまぐれ開店を実施。トークと歌の魅力的なイベントを行った。

上映本数 3本 動員数 1,500人

### (18) “SAMURAI (サムライ)” 賞授賞式

11月3日(木・祝)のクロージングセレモニーにて、第3回の“SAMURAI (サムライ)”賞授賞式を行った。受賞者は、マーティン・スコセッシ監督と黒沢清監督。当日は、会期直前に来日されていたスコセッシ監督よりいただいたビデオメッセージを流し、黒沢清監督には登壇いただいた。スコセッシ監督の日本映画に対する深い愛情、日本の偉大な監督たち(黒沢清監督も含め)に対する敬意の深さに会場は大いに心を打たれた。

### (19) 黒沢清監督 第3回 “SAMURAI (サムライ)” 賞授賞記念トークイベント

第3回“SAMURAI (サムライ)”賞を受賞した黒沢清監督による、プロの映画監督・制作者を目指す若いクリエイターに向けてのトークイベント。映画を作っていく上での心構えなど興味深い話がなされた。

11月3日(木・祝) アカデミーヒルズ49タワーホール 動員数 352名

### [共催・提携企画]

#### (1) UCLA 映画テレビアーカイブ 復元映画コレクション

UCLA 映画テレビアーカイブが復元した『荒野の決闘(非公開劇場版)』など代表的な12作品を35ミリフィルムで上映。貴重な機会に、世代を超えた映画ファンが連日押しかけ、大変な賑わいを見せた。

10月25日(火)～11月6日(日) 東京近代美術館フィルムセンター大ホール

上映本数 12作品 動員数 4,458名

#### (2) 第13回文化庁映画週間

##### ①平成28年度文化庁映画賞贈賞式

優れた文化記録映画に賞を贈呈すると共に、日本映画を支えてきた功労者を顕彰。

会期：10月25日(火) 場所：グランドハイアット東京

##### ②平成28年度文化庁映画賞受賞記念上映会

文化庁映画賞を受賞した3作品を上映すると共に、監督などを招きQ&Aを行った。

会期：10月30日(日) 場所：神楽座

##### ②シンポジウム—MOVIE CAMPUS—

劇場アニメについて、第1部はアニメーション監督による議論、第2部は関連作品の上映を行った。

会期：10月29日(土) 場所：神楽座



**(3) みなと上映会** 10月29日(土) / 10月30日(日)

10月29日は大人が楽しめる名作映画を上映。10月30日の親子向け上映では短編アニメの上映とワークショップを開催した。

場所：TOHO シネマズ六本木ヒルズ (29日)、政策研究大学院大学想海樓ホール (30日)

**(4) プレイベント上映会** 10月1日(土)

第29回東京国際映画祭の事前告知を目的とする、港区民を主に対象とした上映会。本年度は第28回東京グランプリ作品『ニーゼ』、及び、第28回コンペティション出品作品『残穢 - 住んではいけない部屋 - 』を上映。好評を得た。

**(5) APN アワード授賞式** 10月26日(水)

アジア・太平洋の映画産業に最も貢献した映画人に贈られる APN (アジア・プロデューサーズ・ネットワーク) アワードが俳優・浅野忠信氏、女優・桜庭ななみ氏、映画監督・行定勲氏に贈呈された。

**(6) 京都フィルムメーカーズラボ マスターズセッション**

10月29日(土) ~ 11月3日(木・祝)

選抜された国内外の若手映像作家を対象に、TIFF 審査員ほかを迎えて8つのセミナーを開催。

場所：京都文化博物館、東映京都撮影所ほか

**(7) アジア・シネラマ—アジア・フィルム・アワード・アカデミー フィルムロードショー**

会期：10月28日(金) ~ 30日(日)

AFA (アジアフィルムアワード) の受賞・ノミネート作品から歴史映画5本をセレクト上映。国内外ゲストのトークイベントを実施。 場所：京都文化博物館

**(8) 映像シンポジウム** 10月28日(金)

ミャンマー映画の上映及び制作陣パネルディスカッションに加え、キヤノンマーケティングジャパン株式会社のプレゼンを実施。 場所：神楽座

**(9) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム** 10月26日(水)

松永大司監督作品『トイレのピエタ』上映に続き、松永監督とマギー・リーさんの対談を行った。

**(10) WOWOW 映画工房×ジャパンプレミア feat. スター・ウォーズ in 東京国際映画祭**

10月28日(金)

日本初上映の映画3作品の上映と、斉藤工・板谷由夏・中井圭によるトークショーを実施。

**(11) ウルトラマンシリーズ放送開始50年特別企画：脚本家 金城哲夫** 11月3日(木・祝)

ゲストを招いてのトークおよび金城哲夫脚本作品のダイジェスト上映を行った。

- (12) 特別提携企画 「PFF アワード 2016」 グランプリ受賞作品上映 11月1日(火)  
グランプリ作品『食卓』、準グランプリ『花に嵐』を同時上映し、両監督のトークを実施。
- (13) PFF 特別セミナー 11月1日(火)  
プロデューサー3氏(榎井省二、小川真司、川村元気)をお招きし、どのような監督を求めているか伺った。
- (14) 「SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2016」 作品上映 11月2日(水)  
SKIP シティ国際Dシネマ映画祭 2016の『話す犬を、放す』が上映された。
- (15) 第6回日本学生映画祭 11月3日(木・祝)  
3大学生映画祭のグランプリ作品を上映、大友啓史監督によるトークイベントも開催。
- (16) 特別セミナー 中国映画界の今 10月26日(水)  
中国映画界を代表する3名のゲストを迎え、中国映画界の現状と映画人育成について語っていただいた。
- (17) MPTE AWARDS 2016 11月27日(水)  
映像制作現場の技術者を表彰する日本で唯一の賞「MPTE AWARDS」各賞の授与が行われた。
- (18) スターチャンネル 映画アカデミー映画翻訳者による映画の見方、楽しみ方 11月2日(水)  
現役の翻訳者を講師に迎え、翻訳の妙技と新しい映画の楽しみ方を提案するトークイベントを実施。
- (19) MPAセミナー／高速オンラインリリース：映画&テレビ産業の需要を満たすために 10月28日(金)  
オンライン上における著作権侵害と闘うために、幾つかの重要な取り組みが推進された。
- (20) MPA/DHU フィルムワークショップ 10月30日(日)  
ジョン・ポールソン監督、岡本貴也氏らを審査員に迎え、シノプシスコンテストを行った。
- (21) 東京国際映画祭 CROSSCUT ASIA 提携企画 インドネシア怪奇映画の女王、スザンナ 11月11日(金)  
四方田犬彦氏が貴重な映像資料を用い、インドネシア怪奇映画史を分かりやすく解説した。

(22) フランス幻想怪奇映画特集～『ダゲレオタイプの女』公開記念～ヒッチコックからはじまる映画史～『ヒッチコック/トリュフォー』公開記念～ 9月24日～12月10日

フランス幻想映画を1915年から現代まで辿る企画。ゲストに黒沢清監督らを迎え、大変好評であった。

(23) ジャン=ミシェル・ベルナールによるシネマ・コンサート 10月30日、11月1日

初日の『恋愛睡眠のすすめ』の上映とマスタークラスは20名。翌々日のシネマ・コンサートは35名の来場。

(24) 独立映画鍋企画トーク「女もつらいよ!? 日本映画と現場のリアル～映画・仕事・子ども～」 10月28日(金)

ドイツやフィリピン等のゲストを迎え、日本の映画現場における女性の労働環境改善について活発に討議がなされた。

(25) キネコ国際映画祭2016 & TIFF 11月2日(水)～6日(日)

新拠点で、過去最大規模の映画祭を開催。海外映画祭とのリレーションも深まった。

(26) SKIP シティ国際Dシネマ映画祭2016 7月16日(土)～24日(日)

今年で13回目となるSKIP シティ国際Dシネマ映画祭2016を開催

(27) 第38回PFF(ぴあフィルムフェスティバル) 9月10日(土)～9月23日(金)

「PFF アワード2016」、世界展開の「8ミリ・マッドネス」や映画講座など、ゲストを多数迎え、実施。

(28) 第9回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月16日(金)～9月19日(月・祝)

山田洋次監督にコメディ栄誉賞を授与。特別招待作品やコンペティション、企画上映など実施。

(29) 第13回ラテンビート映画祭 10月7日(水)～11月13日(日)

今年もTIFFとのコラボで『名誉市民』を上映、新たに試みたドラマティックリーディングは大盛況であった。

(30) ドイツ映画祭2016「HORIZONTE」 10月15日(土)～19日(水)

本映画祭では現在のドイツ映画の多様性を日本の観客に紹介しました。

(31) ショートショートフィルムフェスティバル & アジア 秋の短編映画収穫祭

10月17日(月)～23日(日)

SSFF&ASIA 2016 グランプリなど20作品を上映、塚本晋也監督らのワークショップも実施。

(32) 新宿芸術天国 新宿シネマズナイトアウト 10月21日(金)～23日(日)  
12本のあらゆるジャンルの作品を上映。新宿を訪れた映画ファンから好評を得た。

(33) 2016 東京・中国映画週間 10月21日(金)～10月26日(水)  
今年は初となる授賞式を行い、優秀作品・監督・俳優・女優にゴールドクレイン賞を授与。した

(34) 台湾未来映画週間 in Tokyo 10月22日・23日・26日・28日  
22日の開幕式には60名のファンが出席

(35) コリアン・シネマ・ウィーク 2016 10月26日(水)～29日(土)・31日(月)  
最新の韓国映画5本の上映などを通じて韓国映画の魅力を広く紹介し、好評を得た。

(36) 第3回アジア大学生映画祭 10月27日(木)～30日(日)  
3会場で各作品3回の上映と崔洋一監督の特別セミナーを行い、11作品に各賞を贈賞。

(37) 第10回田辺・弁慶映画祭 11月11日(金)～11月13日(日)  
コンペティション作品、招待作品等、計23本を上映。

(38) ポーランド映画祭 2016 11月26日(土)～12月16日(金)  
今年で5年目5回目となった本年は「追悼 アンジェイ・ワイダ監督特集」「ポーリッシュ・シネマナウ」の特集で構成され、今までに増して幅広い観客層に支持され、盛況であった。

#### [顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画スプラッシュ 作品賞）。

#### [運営]

##### ① 自主企画の実施

本年度は、新規部門も含めた以下の部門（「コンペティション」「アジアの未来」「日本映画スプラッシュ」「特別招待作品」「ワールド・フォーカス」「JAPAN NOW」「TIFF ティーンズ」「TIFF チルドレン」他）を実施した。

##### ② 上映会場、各種会場

六本木地区、及び、新宿地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHO シネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）

EX シアター六本木（1スクリーン）

歌舞伎座、東京国際フォーラムホールC

・その他の会場（提携企画等を上映、実施）:

国立近代美術館フィルムセンター大ホール、神楽座、お台場シネマメディアージュ、  
港区立芝公園、政策研究大学院大学想海樓ホールほか

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」: オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」: 映画祭事務局、プレスセンター、記者会見場、各種取材部屋、各種セミナー会場、レセプション会場

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」: TIFF コミュニティ広場として使用。

「ヒルズカフェ」: TOKYO CINEMA LOUNGE として使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」: 連日、各種イベントの実施に使用。

「小田急百貨店新宿本館 12F レストラン街」: 本映画祭の出品作品の紹介等の場として活用。

### ③ 入場料金

- |   |           |                       |
|---|-----------|-----------------------|
| ○オープニング／クロージング  | 一般：2,000円 | 学生前売・当日：1,500円        |
| ○クロージング授賞式＋グランプリ上映  | 一般：2,000円 | 学生前売・当日：1,500円        |
| ○特別招待作品   | 一般：1,800円 | 学生前売：1,500円 学生当日：500円 |
| ○特別上映（下記2作品以外）  | 一般：1,800円 | 学生前売：1,500円 学生当日：500円 |
| ○特別上映（『笑う101歳×2』）   | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○特別上映（『うつくしいひと』）  | 一般：1,000円 | 学生前売・当日：500円          |
| ○ワールド・フォーカス（下記2作品除く）  | 一般：1,500円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○ワールド・フォーカス（『痛ましき謎への子守唄』）                                     | 一般：2,500円 | 学生前売・当日：2,000円        |
| ○ワールド・フォーカス（『クーリンチェ少年殺人事件』）                                   | 一般：2,000円 | 学生前売・当日：1,500円        |
| ○コンペティション   | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○東京グランプリ受賞作品  | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○アジアの未来、日本映画スプラッシュ、CROSSCUT ASIA、観客賞受賞作品                      | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○JAPAN NOW（公開中、近日公開作品）  | 一般：1,800円 | 学生前売：1,500円 学生当日：500円 |
| ○JAPAN NOW（上記以外の作品）   | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○JAPAN NOW（オールナイト作品）  | 一般：3,500円 | 学生前売・当日：3,500円        |
| ○日本映画クラシックス、アジア三面鏡  | 一般：1,300円 | 学生前売：1,000円 学生当日：500円 |
| ○みなと上映会、監督協会上映、PFF アワード作品、SKIP シティ作品、ユース（TIFF ティーンズ）、ウルトラマン企画 | 一般：1,000円 | 学生前売・当日：500円          |

- 映画監督・細田守の世界 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- WOWOW映画工房オールナイト上映 一般：4,500円 学生前売・当日：4,500円
- 日本映画スプラッシュ・オールナイト上映 一般：3,500円 学生前売・当日：3,500円
- 第6回日本学生映画祭 一般：1,000円 学生前売・当日：500円
- 歌舞伎座スペシャルナイト 一般・学生：10,000円
- TIFF アニ！！ 一般・学生 前売り 4,000円 当日 4,500円

#### ④ 会期中のイベント

(六本木ヒルズ アリーナイベント)

○オープニング・イベント：10月25日(火)

レッドカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

○デイリーイベント10月26日(水)～30日(日)

・Cinema Arena 連日、映画を上映

『キングスグレイブファイナルファンタジーXV 英語版』野末監督によるトークイベント

『ポケットモンスター サン・ムーン』ジブンを越えよう。ピカチュウ登壇イベント

・くまもと×ぐるなび くまダイナー in 東京国際映画祭

(TIFF コミュニティ広場)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」を TIFF コミュニティ広場と称して、一般来場者の寛ぎスペースとして演出した。中央にテーブルを配し、防寒対策でストーブを設置。インフォメーションブース、チケットブースを設置、サイン会等も活発に行われた。

#### ⑤ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFF の WEB サイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場で  
の案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や  
専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

#### ⑥ オリジナル・グッズの販売

TIFF オフィシャルグッズとして、公式プログラム、トートバッグを販売した。

### [広報活動]

- ① 新聞広告・・・「朝日新聞」紙上
- ② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月17日より
- ③ プレス PASS・・・取材者向けの ID 登録。  
取材エリア、プレスセンターへの入場及び P&I 上映で利用
- ④ 記者会見
  - 記者会見 2016年9月26日 虎ノ門ヒルズ・メインホール
  - 会期中の記者会見 六本木ヒルズ内ホール、TOHO シネマズ劇場内
  - 受賞者記者会見 2016年11月3日 EXシアター カフェ

- 宣伝素材・・・ティザーチラシ、本チラシ(全上映スケジュール入り)、  
「細田守の世界」チラシ、「Tower Light Cinema チラシ」、  
「CROSSCUT ASIA」部門チラシ、  
CROSSCUT ASIA 部門小冊子開催概要、  
公式プログラム、公式記録、ポスター、記者会見資料

- ⑤ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌  
への特集掲載、WEB ポータルサイトへの特集掲載など

紙媒体（新聞・雑誌）	合計	421 媒体
電波媒体(TV・ラジオ)	合計	179 媒体
ネット媒体	合計	6,775 媒体
海外広報：海外媒体合計		8,000 媒体
パブリシティ合計		15,375 媒体

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。

- ⑥ 公式サイト・・・オフィシャル動画、ニュースとしてニコニコ動画チャンネル、LINELIVE  
映画コムニュース、Yahoo!GyaO 特集など外部サイトとの連携強化。  
SNS での展開強化でアクセス数増を達成した。

- ⑦ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。  
公式 WEB 及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFF の  
最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様  
はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マ  
スコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

- ⑧ イメージネット・ TIFF の出品作品の素材を提供しているサービス。  
登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り  
込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

#### (森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

会期前の 10 月 24 日（月）より最終日の 11 月 3 日（木・祝）まで、六本木ヒルズ内の  
大型広告スペースにおいて、オープニングクロージング作品の大型ビジュアルや映画祭ロゴ、  
また映画祭と各作品のポスター等を掲出。会場を華やかに盛り上げた。

- ① 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- ② メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、メトロハット・ビジョン
- ③ 66 プラザ 水景、ポスターボード
- ④ 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- ⑤ けやき坂 歩道照明バナー

#### (六本木地区内の広報活動)

東京都交通局のご協力のもと、10 月 2 日（日）から 29 日（土）の 28 日間の長期に渡り、  
都営地下鉄および都営バスと映画祭とのタイアップキャンペーンの告知を行った。

- ① 都営地下鉄全駅 構内ポスター掲出 150 枚
- ② 都営地下鉄 中吊り掲出 1,525 枚
- ③ 都営地下鉄全駅 チラシ設置 10,500 枚
- ④ 都バス窓上広告掲出 1,542 枚
- ⑤ 都バス全車内 チラシ設置 14,470 枚

#### 【東京国際映画祭地区委員会の活動】

「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、東京地下鉄株式会社、東京商工会議所、森ビル株式会社、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。第 28 回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

- みなと上映会 区民を対象にしたクラシック作品、アニメーション上映会の開催  
2016 年 10 月 29 日(土)／10 月 30 日(日)  
TOHO シネマズ六本木ヒルズ (入場者数 162 名)  
政策研究大学院大学 想海樓ホール (入場者数 112 名)
- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金 1 万米ドル)  
授賞式 11 月 3 日(木・祝) TOHO シネマズ六本木ヒルズ SC 2  
受賞作品『ダイ・ビューティフル』  
登壇者 ジョン・ロブレス・ラナ監督、ペルシ・インタランプロデューサー
- 街頭フラッグの掲出  
けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、材木町商店会、芋洗坂にて合計 258 枚  
2016 年 10 月 14 日(金)～11 月 3 日(木・祝)
- みなとクリーンナップ・プロジェクト  
2016 年 10 月 15 日(土) 午前 9 時 30 分受付開始  
六本木ヒルズ会場、六本木駅、麻布十番駅周辺と会場までの道路沿いの清掃を行った。
- 告知記事掲載  
港区の Kiss ポート誌 9 月号にみなとクリーンアップ募集記事、10 月号にみなと上映会記事を掲載し、港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で合計 15 万枚を配布した。



## 2. TIFFCOM 開催事業

### 「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の制作運営（経済産業省の委託事業）

#### ■ TIFFCOM 2016 開催概要

- ① 主催： 経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催： 第29回東京国際映画祭
- ③ 同時開催： 第13回東京国際ミュージックマーケット（13<sup>th</sup> TIMM）※  
東京国際アニメ祭 2016 秋（TIAF 2016 Autumn）
- ④ 日程： 平成27年10月25日（火）～10月27日（木）
- ⑤ 会場： グランドニッコー東京 台場、シネマメディアージュ  
※TIMMは渋谷エクセルホテル東急を主会場に開催（10/24～26）

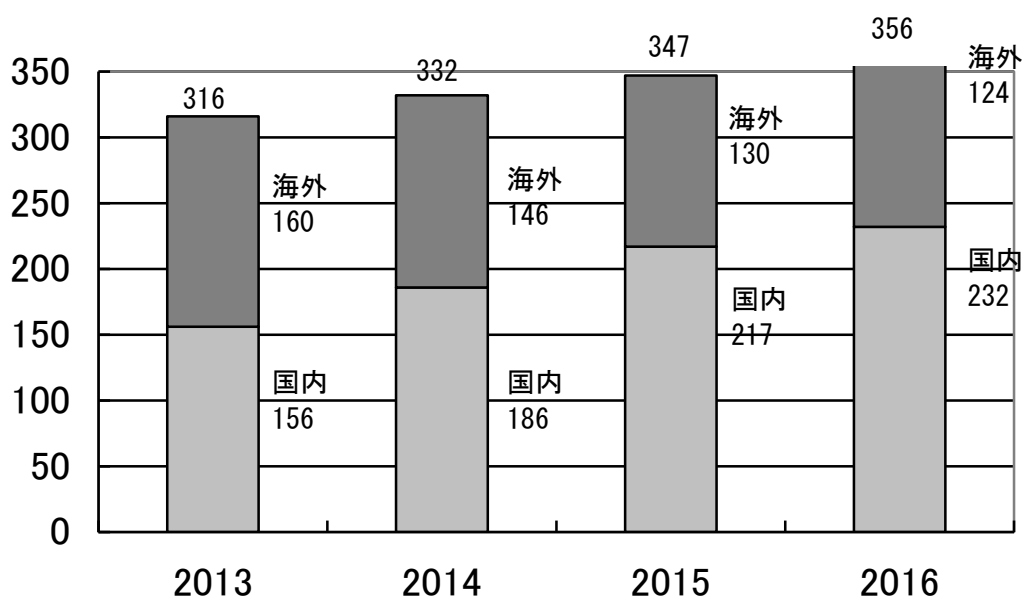
#### ■ TIFFCOM 2016 成果報告

TIFFCOM2016は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットであるTIMM（第13回国際ミュージックマーケット）、アニメ企業の出展によるTIAF（東京国際アニメ祭 2016 秋）、とともに「Japan Content Showcase」（JCS）のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOMとして過去最高となる356の出展団体が参加し、バイヤー登録は、昨年対比33%増の1,539人、商談件数も6,805件と昨年対比約2%伸長した。

#### 【出展者の状況】

2016年度 出展団体数【 海外：124／国内：232 合計：356 】



## 国・地域別出展団体数

アジア	103	日本	232	アフリカ	6
カンボジア	12	ヨーロッパ	9	カメルーン	1
中国	5	フランス	1	コートジボワール	1
香港	9	ラトビア	1	エジプト	4
インド	1	ロシア	1		
インドネシア	2	スイス	1		
韓国	45	イギリス	5		
マレーシア	6	北アメリカ	5		
フィリピン	1	アメリカ	5		
シンガポール	1	オセアニア	1		
台湾	21	オーストラリア	1		

アジア 前年対比 94% (前年 110)、日本 前年対比 107% (前年 217)

ヨーロッパ 前年対比 69% (前年 13)、北米前年対比 125% (前年 4)、

南米 前年対比 0% (前年 1)、中東 前年対比 0% (前年 1)、アフリカ前年対比 300% (前年 2)

## [バイヤーの状況]

■ 2016年度 : 1,539人 ※ 2015年度より 33%増加

### 国・地域別バイヤー登録数

アジア	720	モンゴル	4	スペイン	3
ブルネイ	2	ミャンマー	2	ノルウェー	4
カンボジア	4	ベトナム	28	北米	84
中国	140	日本	613	カナダ	3
香港	108	ヨーロッパ	88	アメリカ	81
インド	15	ベルギー	2	南米	16
インドネシア	23	エストニア	3	ブラジル	5
カザフスタン	2	フィンランド	4	メキシコ	11
韓国	162	デンマーク	1	オセアニア	7
マレーシア	25	フランス	25	オーストラリア	6
ネパール	1	オランダ	1	ニュージーランド	1
ラオス	3	ドイツ	15	アフリカ	7
マカオ	4	ハンガリー	4	エジプト	6
フィリピン	17	ロシア	3	ケニア	1
パキスタン	1	イタリア	5	中近東	4
シンガポール	24	スウェーデン	5	クウェート	1
スリランカ	1	イギリス	8	シリア	1
台湾	100	デンマーク	1	トルコ	2
タイ	54	ポーランド	4		

アジア 前年対比 121% (前年 593)、日本 前年対比 96% (前年 638)

ヨーロッパ 前年対比 97% (前年 91)、北米 104% (前年 81)、南米 94% (前年 17)

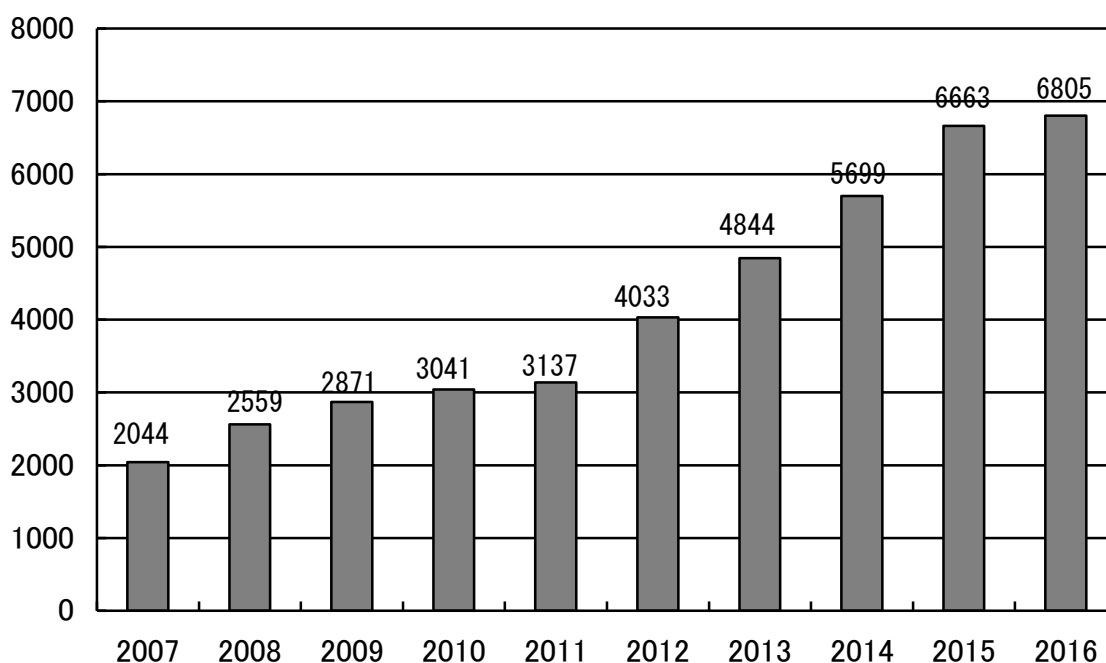
オセアニア 前年対比 88% (前年 8)、アフリカ 175% (前年 4)、中東 400% (前年 1)

2016 年の特徴として、中国のバイヤーが急増したことがあげられる。前年の 80 人から 75%増の 140 人が登録した。一方で昨年は MIPCOM (開催地フランス) と日程が近いことからヨーロッパからの参加者減が予想されたが前年対比 97%に留まり、TIFFCOM への期待の高さとジャパンコンテンツの求心力の強さを印象付けた。

#### [商談結果の状況]

■ 2016 年度 : 総契約金額 : 53,053,381 US ドル

商談件数 : 6,805 件



#### [JCS セミナーの状況]

全 27 セミナー

セミナー総来場者数 2,432 名 (2015 年 2,147 名 前年対比 113%)

主な TIFFCOM 関連セミナー

「日本映画が海外で成功する方法教えます！～欧米市場のトレンドと国際共同製作」

「黎明期から進化期へ！地方制作コンテンツの海外展開と地域創生の今」

「中国映画市場を開拓せよ！～中国トッププロデューサーに聞く」

「緊急課題!?コンテンツビジネスと VR の近未来像」

### 3. 国際振興支援事業

## 【 国際交流 】

#### (1) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

#### ■ 平成 27 年度支援実績

- ① 総採択数 96 件（平成 27 年度実績 85 件）
- ② 総申請件数 119 件（同上 153 件）
- ③ 支援総額 23,673,431 円（同上 22,160,825 円）

#### ■ 主な支援作品

- ・ カンヌ国際映画祭  
『淵に立つ』（深田晃司監督）  
★審査員賞 受賞  
『桃太郎 海の神兵』（瀬尾光世監督）  
『海よりもまだ深く』（是枝裕和監督）
- ・ 上海国際映画祭  
『団地』（阪本順治監督）  
★最優秀女優賞 受賞
- ・ ロカルノ国際映画祭  
『ディストラクション・ベイビーズ』（真利子哲也監督）  
★最優秀新進監督賞 受賞  
『バンコクナイツ』（富田克也監督）  
★若手審査員賞〈最優秀作品賞〉 受賞  
『風に濡れた女』（塩田明彦監督）  
★若手審査員賞 第3席
- ・ ヴェネチア国際映画祭  
『愚行録』（石川慶監督）  
『ぞ・鬼太鼓座』（加藤泰監督）
- ・ モントリオール世界映画祭  
『氷の花火 山口小夜子』（松本貴子監督）  
『たたら侍』（錦織良成監督）  
★最優秀芸術貢献賞 受賞
- ・ ベルリン国際映画祭  
『映画 夜空はいつでも最高密度の青色だ』（石井裕也監督）  
『三つの光』（吉田光希監督）

#### (2) 日本映画・映像コンテンツの海外発信支援（文化庁の委託事業）

#### ■ 主要映画見本市への「ジャパンプース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパブース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

- ① カンヌ国際映画祭マーケット（平成 28 年 5 月 11 日～20 日）
  - \* JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット（平成 28 年 6 月 15 日～17 日）
  - ・ 6 月 16 日（木）「Japan Reception」を開催。
- ③ トロント国際映画祭マーケット（平成 28 年 9 月 8 日～17 日）
  - ・ 9 月 12 日（月）「Japan Film Night」を開催。
- ④ ベルリン国際映画祭マーケット（平成 29 年 2 月 9 日～17 日）
- ⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 29 年 3 月 13 日～3 月 16 日）
  - \* JETRO との共同出展
  - ・ 3 月 14 日（火）「Japan Networkin Party」を開催。

### （3）国際共同製作支援（経済産業省の委託事業）

#### ■ 国際共同製作認定事業

##### ① 実施概要

- ・ 応募件数： 11 件（うち 4 件は更新）
- ・ 認定件数： 10 件
- ・ 文化庁支援採択件数： 4 件

##### ・ 文化庁支援採択企画

	区分	作品名	団体名	共同製作国
1	劇映画	アネット	(有)ユーロスペース	フランス
2	劇映画	空海 KU-KAI	(株) KADOKAWA	中国
3	劇映画	ハナレイ・ベイ	(株) ギークサイト	アメリカ
4	劇映画	Love in Tokyo	松竹(株)	インド

##### ② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・ 日程： 平成 28 年 7 月 20 日(水)
- ・ 会場： ユニジャパン会議室
- ・ 検討委員：
  - 榎田寿文 NPO 法人映像産業振興機構(VIPO) 事務局次長
  - 石川光久 プロダクション I.G 株式会社 代表取締役
  - 井関惺 株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
  - 華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
  - 富山省吾 (委員長) 日本アカデミー賞協会 事務局長

堀越謙三 有限会社ユーロスペース 代表取締役  
南 雅彦 一般社団法人日本動画協会 常務理事  
株式会社ボンズ 代表取締役社長

## 【 情報発信 】

### (1) 海外向け日本映画データベース・Japanese Film Database (JFDB) の運営 (国際交流基金との共同事業／一部に特定非営利活動法人映像産業振興機構からの業務委託)

日本で唯一の日英バイリンガルの日本映画オンラインデータベースの運営を、前年度に引き続き行った。平成 28 年に日本国内で 1 週間以上劇場公開された作品を中心に、380 本を新規掲載した。VIPO からの業務委託により、JLOP 支援作品を JFDB に掲載し、同機構の JACC サーチと JFDB を連携させた。また、日本映画のクラシック作品（1950-1970 年代）の 546 本を追加で JFDB に掲載した。

#### ■ 現在までの掲載作品数

公開年	掲載作品数
平成 13 年	7 本
平成 14 年	42 本
平成 15 年	119 本
平成 16 年	139 本
平成 17 年	117 本
平成 18 年	224 本
平成 19 年	292 本
平成 20 年	372 本
平成 21 年	358 本
平成 22 年	408 本
平成 23 年	368 本
平成 24 年	399 本
平成 25 年	356 本
平成 26 年	365 本
平成 27 年	269 本
平成 28 年	926 本
合 計	4,761 本

## (2) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

(文化庁の委託事業)

海外における日本映画の上映促進を目的とし、主要映画祭・映像見本市にて配布するべく、平成 27 年に劇場公開された代表的な日本映画・劇場版アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載した小冊子を作成した。

### ■ Japanese Film 2016 の概要

- ① 配布数： 2,500 部
- ② 配布先： カヌヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM (東京)、アメリカン・フィルム・マーケット (ロサンゼルス)、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品： 選考委員会により 80 作品を選出し、日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計： 一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会より協力を得て、各種統計情報を掲載

## (3) 第 13 回 文化庁映画週間の実施 (文化庁の委託事業)

我が国の映画芸術の向上とその発展に資するため、文化庁映画賞として優れた文化記録映画作品 (文化記録映画部門) 及び永年にわたり日本映画を支えてきた功労者 (映画功労部門) に対する顕彰を行った。また、日本映画の製作者と観客をつなげるための活動を促進するべく、国内外の現状と展望を広く紹介することをテーマにした全国映画会議を実施した。

### ■ 文化庁映画賞

#### ① 贈呈式

- ・日程： 平成 28 年 10 月 25 日 (火) 20 時 30 分～
- ・会場： グランドハイアット東京「タラゴン」

#### ② 文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・日程： 平成 28 年 10 月 30 日 (日) 11 時 00 分～
- ・会場： 神楽座

平成 28 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

- ・文化記録映画大賞

『氷の花火 山口小夜子』

監督：松本貴子 製作：「氷の花火 山口小夜子」製作委員会

- ・文化記録映画優秀賞

『さとにきたらええやん』

監督：重江良樹 製作：ノンデライコ

『ふたりの桃源郷』

監督：佐々木 聡 製作：山口放送

平成 28 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

- ・安藤 清人（映像照明）
- ・上野 昂志（映画評論）
- ・内田 健二（アニメーション製作）
- ・奥原 好幸（映画編集）
- ・櫻井 勉（映画製作）
- ・多良 政司（映画録音技術）
- ・中野 稔（特撮・映像視覚効果）
- ・森 卓也（アニメーション映画評論）
- ・森田 清次（アニメーション編集）

#### ■ 全国映画会議 シンポジウム-MOVIE CAMPUS-

- ・日程：平成 28 年 10 月 29 日（土）
- ・会場：神楽座

##### ① 第 1 部 『劇場アニメ最前線～君は映画を信じるか』

- ・片渕須直（アニメーション監督）
- ・神山健治（アニメーション監督）
- ・瀬下寛之（アニメーション監督）

モデレーター： 井上伸一郎（株式会社 KADOKAWA 代表取締役専務 執行役員）

##### ② 第 2 部 上映『WXIII 機動警察パトレイバー』

#### （4）平成 28 年度 ASEAN 文化交流・協力事業（アニメーション・映画分野）の実施 （文化庁の委託事業）

アニメーション及び映画分野において、日本を代表する高い技術と経験を持った一流の制作者達を、タイ・マレーシアに派遣し、実践的なワークショップを行った。

##### 【マレーシア事業】（映画分野）

「デジタルシネマ制作ワークショップ in マレーシア」

- ・講師： 諏訪敦彦（監督／東京藝術大学教授）  
柳島克己（撮影監督／東京藝術大学教授）



磯見俊裕（美術監督／東京藝術大学教授）  
宮島竜治（編集／東京藝術大学非常勤講師）

《日程》

平成28年10月31日（月）～11月5日（土）

《場所》

Pinewood Iskandar Malaysia Studios (PIMS)

《参加者》

受講生：26名

受講生の所属：

Multimedia University 15名

LASSALE College of the Arts 6名

東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻 5名

【タイ事業】（アニメーション分野）

「アニメーションブートキャンプ 2016 ASEAN」

・講師：京極義昭（アニメーター、演出）

佐藤好春（アニメーター／日本アニメーション株式会社）

瀬谷新二（作画監督・株式会社手塚プロダクション 製作局 作画部長）

《日程》

平成28年12月9日（金）～11日（日）

《場所》

Silpakorn University Sanam Chandra Palace Campus

《参加者》

人数：32人

参加者の所属：

Silpakorn University（シラパコーン大学）14名

Kantana Institute（カンタナ・インスティテュート）2名

King Mongkut's University of Technology Thonburi（モンクット王工科大学トンブリー校）2名

King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang（モンクット王工科大学ラートクラバン校）2名

Mahidol University（マヒドン大学）2名

Rangsit University（ランシット大学）2名

Sripatum University（スィーパトゥム大学）1名

東京藝術大学 7名

## 【 人材育成 】

### (1) 国際コンテンツビジネスプロデューサー育成（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「若手人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する海外フィルムスクール（大学院）への留学生に対する支援、国際的なコンテンツビジネスを手がける海外企業等における実務研修の実施、セミナーやワークショップの実施、ネットワーキングイベントの実施、人材育成に関連する調査等を行った。

#### ■長期留学支援事業

##### ① 対象となるフィルムスクール（大学院）

- ・ American Film Institute (AFI Conservatory)
- ・ Columbia University in the City of New York, School of the Arts
- ・ New York University, Tisch School of the Arts
- ・ University of California, Los Angeles, School of Theater, Film and Television
- ・ University of Southern California, School of Cinematic Arts
- ・ University of Texas at Austin, Department of Radio-Television-Film
- ・ Loyola Marymount University, School of Film and Television
- ・ Chapman University, Dodge College of Film & Media Arts
- ・ California State University, Northridge, Mike Curb College of Arts, Media, and Communication, Department of Cinema and Television Arts
- ・ California State University, Fullerton, College of Communications Radio-TV-Film
- ・ The National Film and Television School
- ・ London Film School
- ・ Met Film School

##### ② 対象となるコース

- ・ プロデュースコース
- ・ プロダクションコース
- ・ 脚本コース

##### ③ 平成 28 年度支援対象者

- ・ Columbia University in the City of New York, School of the Arts, Creative Producing  
（在学生）1 名

##### ④ 国際人材育成委員会

支援対象者の選定や助言を行ってもらうために、コンテンツ業界の実務経験者を中心とし

た有識者からなる国際人材育成委員会を設置し全1回の委員会を開催

- ・ 富山 省吾 (日本アカデミー賞協会 事務局長)
- ・ 北谷 賢司 (エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社 特別顧問 / 金沢工業大学 虎ノ門大学院 教授 / 日本大学 芸術学部 客員教授)
- ・ 鈴木 英夫 (東映株式会社 執行役員 / 宣伝部長)
- ・ 土川 勉 (SKIP シティ国際D シネマ映画祭 ディレクター)
- ・ 堀 義貴 (株式会社ホリプロ 代表取締役社長)
- ・ 松岡 宏泰 (東宝東和株式会社 代表取締役会長 / 東宝株式会社 取締役)
- ・ 山下 勝 (青山学院大学 経営学部 教授)
- ・ 山本 一郎 (松竹株式会社 映像統括部)
- ・ 平井 淳生 (経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長)
- ・ 西村 隆 (公益財団法人ユニジャパン 管理部長)

## ■海外企業実務研修

### ① 実務研修実施先となる海外企業

- ・ 国際的なコンテンツビジネスに関連した業務を行っており、プロデューサーとして必要な実務経験を得ることができる海外のコンテンツビジネス関連企業や制作現場

### ② 研修内容

- ・ 市場調査、マーケティング、プロモーション、脚本開発、映画製作、テレビ番組製作、デジタルコンテンツ製作、アニメーション製作といった、国際的なコンテンツビジネスに関連する実務に携わる研修

### ③ 平成28年度研修実施先

- ・ Warner Bros. Home Entertainment Inc. (マーケティング及びプロダクション部門における業務) 2名
- ・ LBO Productions (映画『Ghost in the Shell』の撮影現場における業務) 1名
- ・ Bando à Parte (映画『Lovers on Borders』の製作現場における業務) 1名
- ・ International Programme Content Network (テレビ番組製作部門における業務) 1名

## ■セミナー及びワークショップ

### ① 米国UCLAにおける1Week プロデュースングプログラム

世界最高水準のフィルムスクールのひとつである UCLA School of Theater, Film and Television の協力のもと、ハリウッドで活躍する講師陣によるレクチャーとグループワークを通じて業界最先端の国際コンテンツビジネスプロデュースについて学ぶ1週間の合宿型研修を米国ロサンゼルスにおいて実施

- ・ 日 程 : 平成28年9月5日(月)~9日(金)
- ・ 会 場 : University of California, Los Angeles (UCLA) (米国ロサンゼルス)

- ・ 参加者：24人

## ② プロデューサーアカデミー / ジェネラルコース

国際コンテンツビジネスプロデューズに関連した業務に携わっている優秀な若手人材を対象にして、コンテンツビジネスの実務経験者を中心とした講師から、プロデューズに関連した様々な分野の知識やスキルを学ぶことで、プロデューズに関連する総合的なスキルアップを図るとともに、業界とのネットワークを構築してもらうことを目的とする全5回の連続講座を実施

- ・ 日程：平成29年1月14日（土）、1月28日（土）、2月11日（土）、2月25日（土）、3月11日（土）
- ・ 会場：すべて AP 新橋虎ノ門 会議室 D（東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル）
- ・ 参加者：25人

## ③ ハリウッド流映画・テレビ企画ピッチ実践セミナー（テレビ編）

海外に対する企画の売り込みや資金調達、国際共同製作のパートナーを獲得するために必要な企画ピッチのスキルを身につけるとともに、参加者間及び参加者とハリウッドから招聘した講師とのネットワーク構築を行うことを目的として、ハリウッドスタイルのテレビシリーズの企画ピッチについての解説を行うセミナーを実施

- ・ 日程：平成29年1月21日（土）・22日（日）
- ・ 会場：AP 新橋虎ノ門 会議室 B（東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル）
- ・ 参加者：53人

## ④ ハリウッド流映画・テレビ企画ピッチ実践セミナー（映画編）

海外に対する企画の売り込みや資金調達、国際共同製作のパートナーを獲得するために必要な企画ピッチのスキルを身につけるとともに、参加者間及び参加者とハリウッドから招聘した講師とのネットワーク構築を行うことを目的として、ハリウッドスタイルの映画ピッチについての解説を行うセミナーを実施

- ・ 日程：平成29年2月18日（土）・19日（日）
- ・ 会場：AP 新橋虎ノ門 会議室 B（東京都港区西新橋 1-6-15 NS 虎ノ門ビル）
- ・ 参加者：44人

## ■カリキュラム構築

### ① プロデューサー向けカリキュラム構築

日本コンテンツの国際展開に資する人材のすそ野を広げることを目的として、過去の事業で収集した市販の書籍や資料、有識者が執筆したテキスト等に加えて、今年度の事業で新たに書き下ろしたテキストや、国際コンテンツビジネスプロデューズを学ぶうえで有用

な市販の書籍等をピックアップして再整理を行い、プロデューサーを目指す人材が活用して自ら学ぶことができるようなカリキュラムの構築を実施

- ② コンテンツビジネスプロデューサー向けポータルサイト「Producer Hub」のリニューアル  
主としてコンテンツビジネスのプロデュースに関わる人とプロデューサーを目指す人に対して、フィルムスクール留学情報、セミナーやワークショップの開催情報、参考書籍やテキストの紹介、プロデューサーが身につけておくべき知識やスキルに関する情報など、これまでの事業実施を通じて蓄積してきた国際コンテンツビジネスプロデュースに関連した情報を提供してきた Web サイト「Producer Hub」のリニューアル作業を実施

## ■人材育成調査

- ① プロデューサー向け参考書籍に関する調査  
国際コンテンツビジネスプロデューサー向けのカリキュラム構築に必要な情報を収集することを目的として、プロデューサーを目指す人材が知識やスキルを身につけるために目を通しておくべき国内外の参考書籍に関する調査を実施
- ② プロデューサー向け英文書籍の翻訳  
国際コンテンツビジネスプロデューサー向けの海外書籍の中から、これまでに翻訳されていない良書を選定したうえで、非独占的な契約により翻訳権を取得して日本語への翻訳を実施

## (2)「第38回PFF（ぴあフィルムフェスティバル）」の共催

(映画演劇文化協会の補助事業)

### ■ 実施内容

- ① 日程：平成28年9月10日（土）～9月23日（金）＊月曜休館
- ② 会場：東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール、小ホール
- ③ 最終審査員：
  - ・遠藤日登思（映画プロデューサー）
  - ・沖田修一（映画監督）
  - ・荻上直子（映画監督）
  - ・佐渡島庸平（編集者）
  - ・野田洋次郎（アーティスト／ミュージシャン）

### ■ 受賞結果

- ・グランプリ：『食卓』（小松 孝・34歳）
- ・準グランプリ：『花に嵐』（岩切一空・23歳）
- ・審査員特別賞：『シジフォスの地獄』（伊藤 舜・22歳）

『溶ける』（井樫 彩・20歳）、

『また一緒に寝ようね』（首藤 凜・21歳）

- ・エンタテインメント賞（ホリプロ賞）：『DRILL AND MESSY』（吉川鮎太・21歳）
- ・ジェムストーン賞（日活賞）：『花に嵐』
- ・映画ファン賞（ぴあ映画生活賞）：『また一緒に寝ようね』
- ・観客賞：『ヴァニタス』（内山拓也・23歳）
- ・日本映画ペンクラブ賞：『花に嵐』

#### ■ 東京国際映画祭での提携企画

- ・「ぴあフィルムフェスティバル「PFF アワード 2016」受賞作品上映」

上記グランプリ作品及び準グランプリ作品の上映、両監督が観客との質疑応答に参加。

- ・「PFF 特別セミナー：榊井省志&小川真司&川村元気プロデューサーに聞く！」

若いフィルムメーカーを対象に、一線で活躍中の映画プロデューサーをパネラーに迎えて実施。